

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次のうち、障害者福祉に関する法律の内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 障害者の雇用の促進等に関する法律では、事業主に精神障害者雇用を義務づけている。
- 2 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律では、知的障害者福祉施策も包含している。
- 3 「障害者総合支援法」では、対象としている障害者は18歳以上の者である。
- 4 「障害者虐待防止法」では、社会的障壁による権利侵害の防止を目的としている。
- 5 「障害者差別解消法」では、民間企業に社会的障壁の除去の実施についての合理的配慮を義務づけている。

- (注) 1 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。
- 2 「障害者虐待防止法」とは、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。
- 3 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

問題 37 次の記述のうち、精神科病院の退院後生活環境相談員(精神保健福祉士)の業務として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 本人が退院を希望してから、ピアサポーターと交流できる機会を設ける。
- 2 退院に向けた意欲の喚起や相談支援を行う。
- 3 退院日が決まった段階で、地域援助事業者に支援を依頼する。
- 4 地域相談支援の利用に当たり、地域移行支援計画を作成する。
- 5 地域生活のための、クライシスプランを検討する。

問題 38 次のうち、「平成 26 年患者調査」(厚生労働省)において、平成 11 年の同調査と比較して、その推計患者数が減少しているものとして、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 精神病床の入院患者
- 2 うつ病の入院患者
- 3 統合失調症の外来患者
- 4 アルコール依存症の外来患者
- 5 精神疾患の総患者

問題 39 次の記述のうち、ソーシャルワークにおける権利擁護の中の代弁機能に当たるものとして、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 風呂に入っておらず衛生の保持ができていない子どもがいたため、保護者面談で状況を把握した。
- 2 購入した商品の不満をうまく伝えられない通院患者から依頼を受けて、消費生活センターに同行した。
- 3 精神科の入院患者に対し、精神医療審査会の役割と利用の仕方について学習会を開催した。
- 4 被災者に対する医療費減免に関する制度の存続を求めて、関係自治体に対し話し合いを求めた。
- 5 金銭管理に困難のある精神障害者の家族に対し、日常生活自立支援事業とその窓口を伝えた。

問題 40 次の記述のうち、精神科リハビリテーションにおけるチームアプローチで各構成員に求められるものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 それぞれの視点でモニタリングを行い、その結果を共有する。
- 2 意見が対立した場合は、外部の専門家に決定を委ねる。
- 3 インフォーマルな関係形成を控える。
- 4 緊急事態が起きたときも、意見の一致を優先する。
- 5 それぞれがチームの目標を設定し、職種の専門性を発揮する。

問題 41 次の記述のうち、1994年にWHO、ILO、UNESCOにより示された合同政策方針における「地域に根差したリハビリテーション(CBR)」の考え方として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ストレス-脆弱性-対処モデルを基盤とする。
- 2 合理的配慮が初めて定義された。
- 3 公的サービスを主軸に置く。
- 4 総合的な地域開発の戦略の一つである。
- 5 病気の再発防止を目的とする。

問題 42 次のうち、相談援助のインテーク段階において、相談機関が対応可能かどうかを判断する方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コーディネーション
- 2 エンゲージメント
- 3 スクリーニング
- 4 モニタリング
- 5 リファerral

問題 43 次の記述のうち、相談援助のプランニング段階の説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 援助終了後の変化を定期的に確認し、必要に応じて援助を再開する。
- 2 提供されているサービスの状況を確認しながら、課題達成度を把握する。
- 3 サービスの提供について、関係者が個々の役割を担い援助する。
- 4 ニーズを充足するための様々な社会資源を検討し、それらの活用を考える。
- 5 クライアントのニーズ充足度や効果を客観的に精査する。

問題 44 地域活動支援センターに勤務するG精神保健福祉士は、利用者のHさんから、次のような相談を受けた。Hさんは、「今のマンションに一人暮らしをするようになって半年経ったけれど、昨日、管理人さんから自転車を停める場所が間違っていると注意を受けたんです。停める場所には、いつも注意しているので、絶対に間違っていないと話したのですが、なかなか信じてもらえずに……。もう一度確認してもらったら、管理人さんの勘違いだったんです。どうして疑われたのかな……。病気だからかな」と、涙ぐみながら話した。G精神保健福祉士は、「半年も住んでいるのに、悔しかったですよね」と返答した。

次のうち、G精神保健福祉士が行った面接の技法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 要約
- 2 繰り返し
- 3 感情の反映
- 4 言い換え
- 5 支持

問題 45 次の記述のうち、グループワークの作業期における精神保健福祉士の関わりとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 メンバーのニーズを把握して計画を立てる。
- 2 グループ内でのルールをメンバーと決める。
- 3 個々のメンバーと波長合わせを行う。
- 4 グループ内に形成されたサブグループを活用する。
- 5 グループ目標の達成度をメンバーと評価する。

問題 46 P市保健センターのJ精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)は、Kさん(38歳、男性)から妻のことで電話相談を受けた。Kさんの妻は双極性障害で、精神科に通院している。Kさんは単身赴任中で、妻はP市で小学3年生の子どもと二人で暮らしている。最近、妻の症状が悪化して、朝起きられず、そのために、子どもは学校を休みがちであるという。そのことで、妻は自分を責めている。Kさんは、妻と子どもが心配で毎日連絡は取っているが、仕事の都合で家に戻ることはできない。「何か利用できるものはありませんか?」と尋ねるKさんに、J精神保健福祉相談員は、Kさんをねぎらった上で、活用できる制度を念頭に置いて、妻宅に訪問することを伝えた。

次のうち、J精神保健福祉相談員が考えた、活用できる制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 児童発達支援
- 2 居宅介護
- 3 自立生活援助
- 4 短期入所
- 5 放課後等デイサービス

問題 47 L精神保健福祉士は、精神科病院に勤務して3年目に、デイケア担当から閉鎖病棟の担当となり、退院後生活環境相談員も兼ねることになった。1か月後、L精神保健福祉士は、「病棟での患者の様子を目の当たりにして、デイケアの利用者と違うので、入院患者とどのように接していけばいいのか分からなくなった。自分の専門性に自信がなくなった」と、上司のM精神保健福祉士に相談した。

次のうち、この場面でM精神保健福祉士に求められるスーパービジョンの内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 この状況に対する戸惑いは当然だと返す。
- 2 入院患者との面接場面のロールプレイを行う。
- 3 他職種の専門性を説明する。
- 4 退院支援委員会の開催場所や会議前に準備することを教える。
- 5 退院後生活環境相談員と担当看護師、主治医との関係を解説する。

問題 48 精神保健福祉センターのA精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)のところへ、先日、市政だよりを読んでセンターのことを知ったというBさん(60歳、女性)が訪問してきた。Bさんは、「仕事も辞めて、パチンコばかりする息子に困っている。嫁と孫にも逃げられ、実家に転がり込んできた。やめろと言っても怒るばかりだし、無理やりパチンコ代をくれとせがまれるんです。いつまでこの子で手を煩わせなければならぬのか……。つらいです」と話した。

次のうち、この場面でA精神保健福祉相談員が紹介したBさん自身が利用できる社会資源の情報として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 婦人保護施設
- 2 セルフヘルプグループ
- 3 生活福祉資金貸付制度
- 4 家庭裁判所
- 5 一時生活支援事業

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

〔事例〕

Cさん(50歳、女性)は精神科病院に入院している。Cさんは、専門学校在学中に統合失調症を発症し、退院後に中退した。その後は就職をせずに実家で家事手伝いをしながら、同居する姉夫婦の子どもの面倒を見ていた。両親は既に亡くなっている。これまでCさんは何度か入退院を繰り返しており、今回の入院は3年間となっている。現在の症状は安定している。

Cさんの病棟に新たにD精神保健福祉士が配置された。D精神保健福祉士は、早速Cさんと面接を行った。担当看護師からCさんは退院に否定的ではないと聞いていたが、面接でCさんは退院したくないと言うばかりであった。

不思議に思ったD精神保健福祉士は、姉夫婦と面談したところ、来月には姉の長男が結婚して同居することになっているとのことであった。そのことを外泊時にCさんが知り、それから外泊もしなくなったという。姉夫婦も家族構成の変化や家が狭いことを考えると、Cさんとの同居はできれば避けたいとの意向であった。翌日、D精神保健福祉士は病棟での多職種チームによるカンファレンスに臨み、Cさんへの援助内容について提案した。(問題 49)

多職種チームの援助によって退院したCさんは、デイケアに週3日通い始めた。通所当初はメンバーとの交流も少なく、プログラム参加も消極的であった。ある日、就職した元メンバーがデイケアに顔を出し、働く生活について生き生きと話していた。それを聞いたCさんはとても驚き、担当のE精神保健福祉士に、「私なんかなんにもできていないし、とてもあんな人にはなれない」とポツリとつぶやいた。(問題 50)

その後、Cさんは少しずつプログラムに参加するようになり、メンバーとの交流も増えていった。処理能力の低さや緩慢な動作がありながらも、6か月後にはミーティングの司会を担当するまでになった。ある時、E精神保健福祉士との面接でCさんは、「この歳だけど、私も一度でいいから会社勤めをしてみたいんです」と語り、就職の意欲を示した。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、D精神保健福祉士の提案として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Cさんを伴ってグループホームを訪問し、Cさんの視野を広げる。
- 2 姉夫婦に家族心理教育を行い、Cさんが実家に戻れる環境を作る。
- 3 作業療法でCさんの家事能力を高め、実家での役割を作る。
- 4 早めに実家への退院を進め、アウトリーチチームで家族も含めて支える。
- 5 Cさんの気持ちを尊重し、地域移行支援を一旦中止する。

問題 50 次のうち、この時点のCさんにとって必要なデイケアの役割及び機能として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 居場所
- 2 疾患の回復
- 3 生活リズムの改善
- 4 自己効力感の回復
- 5 社会的機能の回復

問題 51 次の記述のうち、この時にE精神保健福祉士がCさんに話した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「プログラムに袋詰め作業を取り入れて、作業スピードの向上を図りましょう」
- 2 「就労継続支援B型事業所なら働けるので、来週見学に行きましょうか」
- 3 「同じ障害があっても働いている方から、困難を乗り越えた経験を聞きましょう」
- 4 「服薬が自己管理できるようになったら、仕事を考えましょう」
- 5 「就職して再発する方がたくさんいます。今の生活を 즐기ませんか」

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)

次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。

### 〔事例〕

発達障害者支援センターのF精神保健福祉士は、Gさん(35歳、女性)から息子のHさん(7歳)のことで相談を受けた。Gさんの話は、「Hは、幼少期から人見知りやこだわりが強かったが、障害とは思っていなかった。保育園でもささいなことで泣き出していたが、園長から、『Hさんの個性として受けとめましょう』と言われていた。しかし、地元のV小学校に入学すると、音に過敏で先生の話が聞けない、ノートが取れない、場面の切替えができない、運動会に参加できないなど、様々なつまずきがみられた。そして、2年生になると授業についていけなくなり、登校を嫌がって自宅でテレビゲームばかりするようになった。そこで、専門医を受診したところ、自閉症スペクトラムと診断された」とのことである。Gさんには診断にショックを受けながらも、無理やり登校を強いてきたことを責める様子がみられた。そして、「私はこれからHにどのように接したらいいのでしょうか」とF精神保健福祉士に尋ねた。(問題52)

V小学校には特別支援学級はなかったが、GさんもHさんも転校は望んでいなかった。そこで、F精神保健福祉士はV小学校と協議の場を設け、Hさんが安心して学校に通うための対応を提案した。(問題53)

Hさんが4年生に進級した時に、特別支援学級が設置され、Hさんは通常の学級との併用を開始した。ところが、しばらくするとHさんは、「なぜ自分だけが他の教室に行くの?」と特別支援学級に行くのを拒み、通常の学級での個別の配慮も嫌がるようになった。Gさんは、Hさんの言動に驚く一方、Hさんが他の児童と自分を比べざるを得ない状況に心を痛めた。Gさんの思いを聞いたF精神保健福祉士は、この件についてV小学校と協議を重ねた。そして、Hさんと同じ配慮が望ましい児童が複数いることも分かり、同様の配慮を教室環境や授業展開に取り入れた。結果として、Hさんが落ち着いて学習できる環境は、他の児童の学習効果につながるものでもあった。また、この取組を通して、児童たちが、Hさんの困り事や支援の意義を理解できるようになったことは大きな成果であった。(問題54)

問題 52 次の記述のうち、F精神保健福祉士のGさんへの助言内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさんが苦手な科目の家庭学習の時間を、増やす。
- 2 Hさんの行動ではなく、性格に注目する。
- 3 Hさんがうまくできないことを、細部にわたって指示する。
- 4 Hさんが家庭でできそうなことを、見付けて日課にする。
- 5 Hさんと同年代の子どもができることを基準に、目標設定する。

問題 53 次の記述のうち、F精神保健福祉士がV小学校に提案した内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Hさんが授業で理解できない内容は、繰り返して話す。
- 2 学校行事では、Hさんへの事前の説明は控えて緊張を和らげる。
- 3 Hさんが、授業中にタブレット端末を活用する。
- 4 教室にはできるだけ多くの情報を掲示して見えるようにする。
- 5 活動の目的ごとに、教室内のエリアを区分する。

問題 54 次のうち、V小学校の児童への取組を示すものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルキャピタル
- 2 ユニバーサルデザイン
- 3 ソーシャルロール・バロリゼーション
- 4 ヘルスプロモーション
- 5 アファーマティブアクション

### (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)

次の事例を読んで、問題55から問題57までについて答えなさい。

#### [事例]

人口8万人の地方都市Q市は、人口減に歯止めがかからず、空き家問題も顕在化し、空き家対策の担当係を設置している。J精神保健福祉士は、隣の市の精神科病院で20年間勤務していたが、数年前にQ市唯一のW精神科病院に転職した。同病院には、実家がきょうだいに代替わりし、帰る家がないなど社会的諸条件が整わないため退院できない患者が多数入院していた。J精神保健福祉士は、それらの患者の地域移行に向けて、地域の関係機関との連携づくりを始めた。(問題55)

同時期に、Q市が設置する地域支援協議会では、精神障害者家族会代表者から、「親の施設入所や死亡により、一人暮らしになる精神障害者が増えつつある。その中には、症状が再燃し、入院となる人も出てきている。親亡き後のことを考えてほしい」という意見が出された。そこでQ市では、地域支援協議会に、W精神科病院、地域活動支援センターI型、就労継続支援B型事業所、保健所、家族会及び当事者会を構成メンバーとする専門部会を立ち上げることとなり、J精神保健福祉士が部会長に就任した。初回の部会では、J精神保健福祉士がファシリテーターとなり、「Q市における精神障害者のニーズと対策」というテーマで、相互に批判をしないというルールの下で多様な意見を出し合った。(問題56)

その後に意見を整理した結果、Q市の現状としては、受入れ条件が整えば退院可能な者の対策が進んでいないことが共有された。そのような患者が地域生活を始めるためにも、また、親との離別により単身となった精神障害者が地域での暮らしを継続していくためにも、居住支援の必要性を確認した。そこで、J精神保健福祉士は、専門部会として、空き家を活用した居住支援を行っている自治体の視察を企画した。そして、Q市の精神保健福祉担当の職員だけでなく、空き家対策を担当する職員にも同行してもらうように働き掛けた。(問題57)

問題 55 次のうち、この時点で、J精神保健福祉士が連携した地域の機関として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 指定一般相談支援事業所
- 2 指定居宅介護支援事業所
- 3 指定通院医療機関
- 4 精神保健福祉センター
- 5 地域包括支援センター

問題 56 次のうち、この場面で、J精神保健福祉士が用いた方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ブレインストーミング
- 2 デルファイ法
- 3 半構造化インタビュー
- 4 KJ法
- 5 パネルディスカッション

問題 57 次のうち、この場面で、J精神保健福祉士が行った働き掛けとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ケアマネジメント
- 2 コラボレーション
- 3 コミュニティアセスメント
- 4 コンサルテーション
- 5 リーダーシップ

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

### 〔事例〕

X地域活動支援センター(I型)(以下「センター」という。)は、近隣のR市中学校より中学2年生を対象とした福祉教育の依頼を受けた。「総合的な学習の時間で精神障害を取り上げたい。生徒がメンタルヘルスを考えるとともに、地域共生について学ぶ機会になってほしい」という。センターに勤務するK精神保健福祉士は、以前、センターの利用者に、「もっと早い段階で病気のことを知っていたらよかった」と言われたことを思い出し、改めてセンターに期待される役割を考えた。(問題 58)

依頼を受けたK精神保健福祉士は、中学校教諭、センター利用者、民生委員、同僚の精神保健福祉士たちと共同検討会を行い、授業の目的や内容について協議を始めた。授業で取り上げる精神疾患の種類や知ってほしい社会資源を検討していた時、センターの利用者から、「病気やサービスの説明だけで生徒がこころの健康を考えたり、障害のある人と一緒に生きていけるような地域をつくれるだろうか。講義だけでいいのでしょうか?」との意見が出された。そこでK精神保健福祉士は次のように発言した。(問題 59)

検討会を重ねるうちに、それぞれの思いや願いを率直に語る雰囲気ができ、各々の立場での考え方を共有していった。生徒たちのメンタルヘルス、地域での精神障害者の生活、感じる偏見などの話題を通して授業の目的や内容が明確になり、案がまとまった。授業のテーマは、「誰かに相談することは自分と大切な人を守る」とし、内容はプログラム1としてメンタルヘルスや当事者体験の講義、プログラム2として交流体験型学習と決定した。(問題 60)

授業実施後、生徒たちから、「誰もが一日一日を一生懸命生きていることが分かった」、「自分と周りの人を大切にしたい」などの感想が寄せられた。また教諭より、「当事者の方と交流して、地域で共に生きることを生徒たちが考える機会になった」とコメントがあった。その後、K精神保健福祉士は授業についての報告書をまとめ、この取組を他でも展開していけるよう教育委員会に働き掛けを行っている。

問題 58 次のうち、この時点でK精神保健福祉士が考えたX地域活動支援センター（I型）の役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域における連携強化のための調整
- 2 障害に対する理解の促進のための普及啓発
- 3 在宅障害者への社会適応訓練
- 4 地域のボランティア育成
- 5 相談支援事業の実施

問題 59 次の記述のうち、この場面でK精神保健福祉士が発言した内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 「入院患者さんへの手紙を生徒の皆さんに書いてもらいましょうか」
- 2 「精神疾患の説明を省きましょうか」
- 3 「皆さんの地域共生のイメージを聞かせていただけますか」
- 4 「社会資源の情報提供があれば、十分ではないでしょうか」
- 5 「みんなが自分のこととして考えられるような方法を挙げてみませんか」

問題 60 次の記述のうち、プログラム2の内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生徒がセンター利用者の体験談を聞いて感想文を書く。
- 2 センター利用者が生徒にボランティアの依頼をする。
- 3 生徒がセンター利用者の作成した精神疾患のクイズに答える。
- 4 生徒が疑似体験ツールを用いて統合失調症の疑似体験をする。
- 5 センター利用者と生徒が精神的不調に気付いた時のロールプレイをする。